

平成27年度 第1回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成27年5月21日（木）午後2時30分～午後4時30分
2. 場 所 渋谷学習センター310講習室
3. 出席状況 委員10名（深澤会長、小林委員、坂本委員、直井委員、橋本委員、服部委員、伏見委員、星野委員、吉川委員、米屋委員）
事務局6名（文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興担当3名、市史・文化財担当1名）
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - 1 開会
 - 2 報告事項
(1) 平成26年度 実績報告について
 - 3 意見交換
(1) アートサポーターについて
 - 4 その他
 - 5 閉会
6. 会議資料
 - 大和市文化芸術振興基本計画〔第2期〕平成26年度 実績報告
 - アートサポーター組織の事例について

【会議要旨】

- 1 開会
 - 文化スポーツ部長、文化振興課長より挨拶
- 2 報告事項
 - (1) 平成26年度 実績報告について
 - 市から、「大和市文化芸術振興基本計画〔第2期〕平成26年度 実績報告」について説明。
委 員：施策目標1について、行政が与える取り組みだけでなく、市民が主体的に活動するきっかけになるような取り組みが必要なのではないかと感じる。自身が学ぶだけで満足してしまっている市民が多いように感じている。市民の主体的な活動を通して、世代間の交流が盛んに行われるような、雰囲気が広がっていくことが望ましいと考える。
事務局：子どもに良質な文化芸術の鑑賞を提供するための公演など、行政が主導になって実施しなければならないものもあるが、大和の文化芸術をさらに発展させていくためには、市民の公益的な活動を後押しする取り組みもあわせて行っていく必要がある。双方の取り組みをバランスよく実施していきたい
会 長：施策目標にある「つながり」については、「活動のつながり」の強化も含まれると考える。「高齢者」、「女性」、「若者」などが各々活動しているだけでなく、相互で交流できる場づくりが重要と考える。

委員：本来、「文化」は市民から高まりをみせてくるものである。大和市では、多くの方々が様々な文化芸術を振興する活動をしている。そういった活動をひろいあげてもよいのではないか。

毎年、台湾から戦時中に台湾少年工だった方々が来日し、市民グループと交流が行われている。行政は、そのような文化交流についても知っておく必要があると考える。

委員：一昨年まで開催されていた文芸映画祭は、とてもよい事業だったので、また実施してほしいと思う。

市民と厚木基地在住の外国人との交流は盛んに行われているのか。実態を聞きたい。

事務局：文芸映画祭については、平成25年度で事業を終了した。今後の開催については、新ホールの指定管理者との協議の中で検討していきたいと考えている。

厚木基地在住の外国人との交流については、茶道教室の実施や日本舞踊の披露など市民レベルでの交流は行われているようである。市主催のイベントに出演していることもあるようだ。

委員：横浜市の公共施設では、主に活動している団体のメンバーは、ほとんどが60歳以上で、30歳代くらいの子育て世代は、ほとんど活動できていないようである。行政は、新施設を利用する世代が偏らないような、PRを仕かけていくことが必要である。市民が「皆で創っていこう」という機運を高めていくことが望ましい。

つる舞の里歴史資料館など、市の文化施設で巡回展の企画、実施を検討してもよいのではないか。また、文化施設に配置される職員数が少なくなってきているので、考古学などの専門知識を有する市民ボランティアを募り、協力者を得ることも必要ではないか。

市の財政状況は依然として厳しく、市民ニーズの多様化が進む一方、全ての意見を聞き、実現することは困難である。市民は、行政に任せるだけでなく、役割を担い、協力していくことが必要である。

行政は、指定管理者と上手く連携し、市民の満足度を上げていく取り組みを行っていくことが重要である。

3 意見交換

(1) アートサポーターについて

○市から、「アートサポーター組織の事例について」について説明。

委員：組織の中に友の会がある事例があったが、友の会の特典の内容については、慎重に検討する必要があると考える。

厚木市では、チケットの優先予約が特典の一つにあるが、一般市民が購入できないと、クレームが多く寄せられたようである。事例にあった、市民がボランティアスタッフとして運営に参加し、活躍することができるような特典はよいと考える。若い世代に施設の運営に参加してもらうためには、どのようにすればよいか、考えなければならない。

委員：友の会の特典として、チケットの優先予約は、ある程度の集客を見込めるため必要と考える。新施設が完成する前に友の会が発足できれば、市民の期待や楽しみが増える。例えば、友の会が優先的にチケットを取れる範囲を30%に以内に収めるなど、ルールを設ける方法もあるのではないか。支えてくれる人が常にいることは、公演を実施する側から考えると、非常にありがたいことである。ただし、アートサポーターとは切り離して検討した方がよいのではないかと思う。

- 委員：会員特典は、公演のチラシが送られてくる等の情報提供をメインにしてもよいのではないか。
- 委員：チケットの優先予約は、運営側には、観客数が把握できるという点で非常にメリットがある。ただ、20～30歳代くらいの子育て世代は、時間に余裕がないため、年会費を払ってまで友の会に加入するという感覚はないのではないか。会員になることのメリットは、世代によって異なると思う。
- 委員：興行だけでなく、ダンスフェスティバルや成人式などの場内整理係や舞台装置のサポート係など、市民の手が必要なことは多くある。
大和市らしく、青少年の育成を目的にしたイベントのサポートや市民のためになる内容を前面に押し出していけばよいのではないか。
- 事務局：アートサポーター組織の設立については、「市が設立」、「指定管理者が設立」、「両方で協力して設立」など様々なパターンが考えられるが、組織を継続的、安定的に運営していくためには、市がある程度関与していく必要はあると考える。今後は、様々なケースを想定し、検討を進めていきたい。
- 委員：まずは、市民の皆さんに新施設に興味を持ってもらい、知ってもらうことが必要なのではないか。複合施設なので、開館して間もない頃、市民は、施設について知らないことが多くあると思う。施設全体について案内できるサポーターがいるとよいと考える。
友の会の特典は、金銭的な面だけでなく、バックステージやゲネプロが見られるという付加価値をつけるとよいのではないか。友の会は、施設運営を支える裏方という位置づけでもよいのではないか。事務局についても、市民が中心になって運営することができると感じる。
- 委員：現時点で明確な方向性がわからないうちに詳細を決めようとするとう混乱を招くのではないかと。開館後に必要と感じたものを検討しても遅くはないように思う。
- 委員：劇場ホールに市民が求めるものは、「自分たちの発表の場として安く借りられる」、「良質な公演を観ることができる」ことなどがある。年間の自主事業数の割合については、他市の施設を見ても、全体のほんの一部である。
「借りる」には2通りがある。「見たいものを自分たちが主催するために借りる」と「自分たちの練習成果の発表の場のために借りる」である。事例にある「コラーレ」は、後者の割合が大きい施設。「さくらホール」は、両方バランスの取れた施設である。割合は、地域によって異なる。指定管理者との関わりもあるので、開館前から方向性を決めることは難しいように思う。市民に対して、開館前から大和市の新しい文化拠点ができるということを発信することは必要であるので、まずは、今までの施設とは違うということを広めてくれる応援的な人材がいるとよいのではないか。
- 委員：年間のうち、指定管理者が使用する期間と、市が主体の期間があると思う。市民が参加するイベントは、基本的には市が関わるイベントになり、指定管理者が主催するものには、市民の出番はそこまでないと感じる。現時点で契約内容、方針は固まっているのか。
- 事務局：現時点では固まっていないが、アートサポーターの活動の場は、市主催の事業だけでなく、イベント当日の会場案内係など、指定管理者の事業の中にもあると考える。また、市民団体の発表会も活動の場にするという考え方もできると思う。

委員：市民に自分たちの場であることを意識してもらうことが重要である。ハード面はきれいにできたが、実際には使いきれていないことはよくある。そうなることは避けたい。学生のボランティアに対する意識は大きく変わり、専門的な知識を習得するなどレベルも上がっている。若い世代を巻き込んでいくことが必要なのではないか。友の会は、世代間のコミュニケーションができる場となればよいと感じる。また、新施設は、様々な機能を持っているので、大学や高校の発表の場として提供することもやっていいのではないか。友の会について、「全市民が“友に”なる」というコンセプトで考えていかなければ私物化されてしまう恐れがある。会員だけが特別に使用することは避けたい。

委員：サポーターの専門分野によって、サポートできる内容を分けた方がよいと感じる。例えば、楽器搬入のサポート業務について、楽器は繊細なものが多く、取り扱いは非常に気を遣う。一定の専門知識が必要。

高校生、大学生がジュニアリーダーとして、新成人の代表と共に成人式の企画に関わり、自分たちがどういうイベントにしたいかを考え、作り上げていくというモデルがある。札幌のよさこいは、大学生が実行委員になっている。若い世代が中心になり、自分たちで企画運営していくという意識を持ってもらえるようになればいい。若い世代が企画するイベントには、同世代の子どもたちがたくさん集まる。

行政が何の働きかけもしなければ、年配の方しか施設を利用しないということになりかねない。若い世代も利用したいと思う施設にならなければならない。青少年の育成は重要なことである。大人が時間をかけて考えていくべきである。

事務局：アートサポーター組織については、今回いただいた意見を基に再度、事例収集するなどし、引き続き議論をお願いしたいと思う。次回の審議会でも時間が取れると思うので、ご意見をいただきたい。

4 その他

○市から、芸術文化ホールの進捗について説明。

事務局：芸術文化ホールの工事は順調に進んでいる。ソフト部分に関しては、指定管理者が、やまとみらいという企業体となり、サントリーパブリシティサービス株式会社がホールの管理を担うことになった。来年の開館に合わせ、秋頃から施設申込みが開始する予定である。今年度は、準備委託という形で指定管理者と市が連携して進めていくことになる。

委員：市内の小・中学校の合唱コンクールをお客様も入れて新しいホールで開催してみてもどうか。

国際交流サロンのようなものが施設の一角に作られれば、外国の方との交流の場となるのではないか。また、外国人向けのサイトを開設するのがよいのではないか。外国の方は、インターネットでの情報収集に長けていると思う。

委員：東京オリンピックに向け、観光化が進んでいく。大和市では直接競技は行われなと思うが、オリンピックとホールとが連動した企画が実施できたらいいと考える。

○市から、平成27年度 文化芸術振興審議会開催スケジュールについて説明。

今年度は、今回を含めて4回の開催を予定している。第2回は8月末頃、第3回は11月末頃、第4回は1月末頃を予定している。後日、改めて日程の調整をすることを報告。

5 閉会